

令和8年2月26日(木)

この拠点は今の生活を守っていただけじゃなく、 未来への投資でもある

令和6年に始まったこの会も気付けば、12回もの協議を重ねてきました。
生活支援拠点の在り方が形になりつつある今だからこそ、
どうしたら村のみんなで応援できる場所となるか、改めてみんなで考えました。

 まずは、運営委員のみなさんの
この拠点にける思いをお届けします！

活気あふれる東峰村に。

平成29年の災害で買い物に困るという課題に
直面した。あの日から、みんなの中で、
「村で買い物する場所がほしい」と言ってきた。
思いとしては、みんなが集い、コンビニを利用して、
地域コミュニティでつとて、帰っていく。
そんな活気が少しでも少しでもあふれる村に
なってほしい。
思いはみんなでつくる。そこに買い物に行って、
村を発展させていく。
みんなで盛り上げられるコンビニが
できたらいいな。

胸を張って「コンビニあるよ！」と 言える未来に。

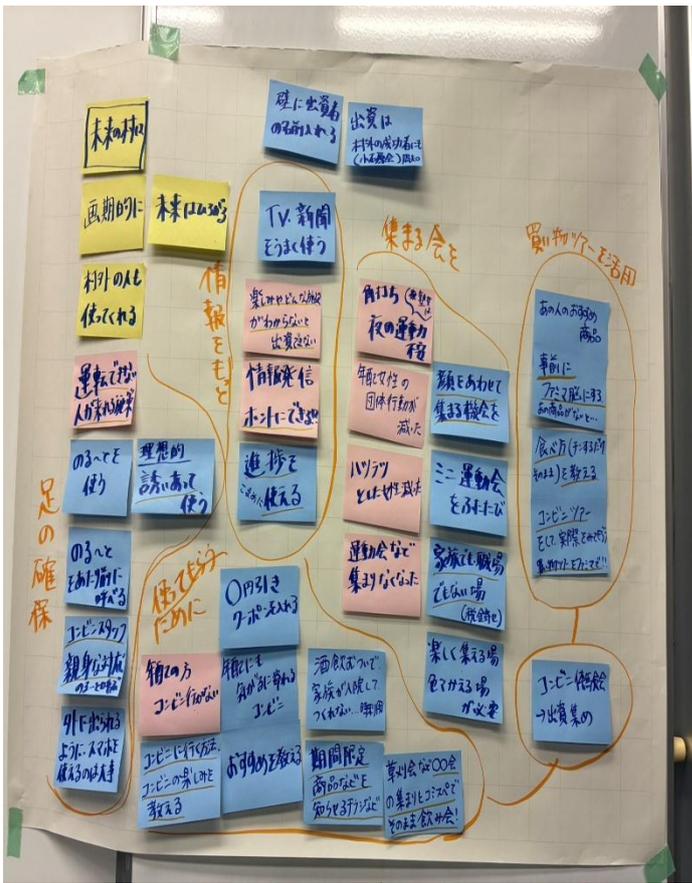
スタートして1年半過ぎた。
みなさんと一緒にどういう風にしたいか話し、
その思いがやっと形にできるのかなと思う。
コンビニが出来るだけでなく、継続することが重要。
そのためには、
1人でも多くの村民が利用するのが大事になってくる。
村民にとって自分のお店として守って、継続できたらいい。
1番は、「東峰村にコンビニあると？」って
よく聞かれるけど、
今度からは胸を張って「コンビニあるよ！」
と言えるようになってくる。
そんな未来に、みんなと協力して向かっていきたい。

今の生活を守っていくのはもちろんのこと、未来への投資。

コンビニを作ろうと始まった協議会ではなく、今後どうなっていくんだろうという漠然とした不安から。
アンケートしたり、調査したりして、こんな形ならみんなでやっていたいかならないかというのを、
みんなで話し合ってきたのが、今、形になろうとしている買い物拠点。
自分たちがこの地域を守っていくために、どうにかしていかなきゃだよなという自発的な、
自主的な思いがベースとしてずっとあるのではないかな。
だからこそ、実現できるのか？と思いつつも、
こんなことあるといいよねとワイワイ話し合ってきたのが、いま、ここ。
みんなが意思をもって、これやっていこうよと決めた部分が1番強いと思う。
最終的にこのコンビニを作るといこと自体は、
今の生活を守っていくというのはもちろんのこと、未来への投資だと思う。



改めて。みんなに応援してもらえる拠点となるには、どうしたらいい？

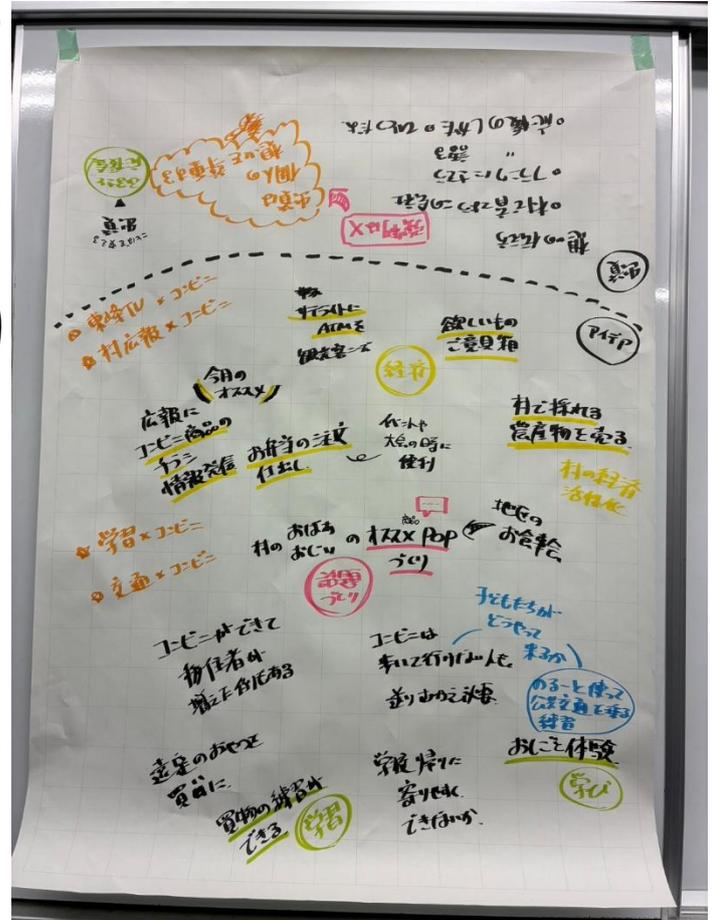


未来ある村にするために、 こまめな情報発信と知る・楽しめる機会を！

- ◆新しい拠点ができたとしても、移動で困る人は多いはず。のりーとを活用することが必要になってくる。
- ◆コンビニができれば、店員さんから「のりーとを呼ぼうか？」など、呼びかけや配慮があると助かるのでは？
- ◆年配者はコンビニに何が売っているのかわからないため、売っているものや調理が簡単なものを知る機会を作りたい。
- ◆今すでに開催されている買い物ツアーで、コンビニに行って、拠点オープン前にお気に入り商品を見つけられるといい。
- ◆以前は村で税金寄せや運動会など交流の場があったが、今はなくなった。拠点で交流できると、よりいい。
- ◆応援してもらうためには、どんな拠点ができるのか、どんないいことがあるのか知ってもらう情報発信が大切では？
- ◆こまめに進捗を情報発信するといい！
- ◆情報発信を行なうことで、今は村外に住んでいる東峰村出身者にも応援してもらえる可能性も！

その人なりの応援の仕方で、 みんなのコンビニに育てていく！

- ◆コンビニは子どもたちが「買い物」を勉強できる場でもある。今後は学校との連携も大切になってくるのでは？
- ◆年配者だけでなく、若い人たちも使うという視点も大切。
- ◆村内の移動においては、どの年代でも移動手段の課題は直面してしまう。
- ◆コンビニが村内にないので、何を売っているのか、何ができるのか分からないとハードルが高くなる。
- ◆防災食の試食会をしたことがあるように、地区で『コンビニのごはんを食べよう会』をしてみるの？
- ◆コンビニでおいしかった商品をPOPにして紹介しては？
- ◆応援の形は出資だけでなく、毎日買い物に行くでもいい。その人なりの応援の仕方で、コンビニを育てていきたい。
- ◆出資は敷居が高い。『ふるさと応援金』など言い方を変えてもいいかもしれない。
- ◆地域に溶け込む店になるように、野菜も売れたらいい。



東峰村食品アクセス緊急対策地域協議会の
これまでの歩みは右記二次元コードからもご覧いただけます！

